

---

---

# 日本ミルトン協会 会報

Newsletter of the Milton Association of Japan

---

Web 版 Vol. 10 (2018)

“Solitude sometimes is best society”

笹川 渉

昨年度の大会は青山学院大学で開催いたしました。研究会として2012年に開催されたのが最後になるので6年ぶりになります。ミルトンをご専門とされる先生から直接のご指導を受ける機会がないまま博士課程に進んだ私が、初めてMCJで発表の機会をいただいた会場であり、また第10回国際ミルトン学会での発表の場であったこともあり、個人的に東京は京都とともにミルトンがいる場所として記憶の中に刻まれています。そして、そのような場を与えてくださった先生方には深い感謝の念をお伝えしたいと思います。

ミルトンに対する理解が十分ではないことを承知しつつ、これまでに教壇からミルトンについて話す機会に何度か恵まれてきました。一年の中でそのような時は数少ないものでしたが、その幸せな時を大変貴重に思いつつ、自分の中でのミルトンについての理解が正しいものであるかどうか、そしてミルトンに初めて触れる学部生が大多数の中で、この大詩人の魅力をどのように伝えることができるのかを手探りすることを重ねてきました。一昨年度から文学部の授業を担当するようになったため、ミルトンについて語る授業を自発的に増やすカリキュラムを組むことができる一方、それを実行することで生じるミルトンのさらなる理解への必要性和、ミルトンの現代性を説明することへの大きな責任感が増したことを痛切に感じます。

Terry Eagleton が *How to Read a Poem* (2007) の中で、*Paradise Lost* の第9巻を引用してミルトンの詩行を読解することの苦労を「肉体労働」と述べているように、ミルトンの詩行は平明さとは対極にあるため、近づきにくい詩人と評されがちです。しかし私たちは、その難解な詩行と格闘し、近づきにくさを超えた時に得られる、作品理解の喜びはそれだけ大きなものとなることを知っています。そして、その「喜びのおとずれ」が、新たな知的探求へと向かわせてくれることを知っています。ミルトンのテキストであるからこそ、授業という共同の場を通じて、学生は一人では得ることが難しい喜びをいっそう感じるようになると思います。私自身にとって、MCJそしてMAJが、ミルトンを理解することができる場であったことはたいへん有難いものでした。

このような難解さの中にある豊穡な想像力がどこからくるのかと考える時、ミルトン自身の孤独を考えざるを得ません。彼にとって究極的に近づきたいと願う存在は神であったでしょうが、革命への希望が破れ、政治的にも宗教的にも理想を達し得なかった詩人にとっては大変困難であったことと想像できます。しかし、高みにあるがゆえに近づけないものに対して欲望を向け続ける力、いいかえるならば、Giorgio Agamben のいう、「所有できない対象を、喪失した対象として示そうとする想像的な能力」をミルトンは持っていたのかもしれませんが。その想像力の豊かさが、後期の叙事詩に花開いたように思われます。

孤独であったミルトン自身は、孤独であることを通じて行われる主体形成を意図していたように思います。*Paradise Lost* で言えば、Adam も Satan も Abdiel も、そして神自身も時として孤独な存在として描かれています。教室で、ミルトンが交流だけではなく孤独にも傾倒していたと話す時、この作家に対する共感を呼ぶことがあります。ミルトンの豊穡な想像力を産み出す力の一つが孤独によるものであったとするならば、今の学生たちが孤独感を抱えているとしても、それを正の力に変化させることを教えてくれる例としてミルトンを提示できるように思います。

追伸 本稿執筆中に、MAJ で大変お世話になった箭川修先生が逝去されたというお知らせが届きました。私がシンポジウムのパネリストとして初めて参加する機会をいただいたのは、麗澤大学で開催された MAJ の第 1 回大会の時で、声をかけて下さったのはオーガナイザーである箭川先生でした。「ミルトンと現代文学」のシンポジウムのプログラムを終えた直後、先生が笑顔で話しかけてくださったことが忘れられません。箭川先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

## 日本ミルトン協会 第 14 回 研究会 報告

日時 2017 年 7 月 1 日 (土) 午後 3 時～午後 5 時

場所 神戸市外国語大学 大学共用施設 UNITY

### 発表

1. 金子千香：ミルトンの「火薬陰謀事件」連作詩における王政批判
2. 菅野智城：反響するマモンの言葉—万魔殿から楽園へ

(出席者 18 名)

## 日本ミルトン協会第 8 回大会および 2017 年度総会 報告

日時 2017 年 12 月 9 日 (土) 午前 10 時 15 分～午後 5 時 10 分

場所 青山学院大学青山キャンパス 17 号館 17501 教室

### 発表

1. 大島範子：獄中のストイック：*Eikon Basilike* と *Eikonoklastes* におけるストイシズム
2. 森 道子：秘められたキリストの受難—『復樂園』のエピック・シミリから楽園へ

### 特別講演

Chia-Yin Huang (Chinese Culture University, Taipei, Taiwan)

“Map Consciousness and Milton’s Vision of the World”

### シンポジウム：ミルトンと科学 —「文学と科学」研究の意味—

1. 川田 潤：文学と科学の狭間
2. 笹川 渉：アダムの読書と生氣論
3. 川崎和基：ミルトンとボイル

### 総会議事録

#### 1. 活動報告

笹川事務局長より 2016 年度の活動について報告があり、了承された。

#### 2. 規約改正審議

笹川事務局長より規約改正の提案があり、了承された（「事務局便り」6-7 頁、「郵便振替口座異動の扱いについて」の項を参照）。

#### 3. 2016 年度会計報告および会計監査報告（金崎八重、江藤あさじ、倉恒澄子）

金崎事務局委員から 2016 年度会計報告が報告され、江藤・倉恒両会計監査委員により監査の結果報告の通りで間違いなしとされた。総会出席の会員により了承された（8 頁参照）。

#### 4. 2017 年度予算（金崎八重）

金崎事務局委員から 2017 年度予算が提案され、総会出席の会員により了承された（8 頁参照）。

#### 5. 2018 年度行事予定について

下記の通り提案され、了承された。

第 15 回研究会：7 月 7 日 神戸市外国語大学

第 9 回大会および総会：12 月 1 日\* 青山学院大学または関東圏の大学

\*総会では 12 月 8 日の日程で提案・了承されたが、他学会の開催日の関係から、その後、運営委員会のメール会議で 12 月 1 日に変更を決定。メーリングリストで報告された。

(出席者 22 名)

## 日本におけるミルトン研究文献目録（2008 年度補遺）

大濱えり 「ロジャー・ウィリアムズの *Experiments of Spiritual Life & Health, and Their Preservatives* (1652) における英雄観」 『清泉女子大学人文科学研究所紀要』第 30 号 (2009.3) 215-32 頁。

## 日本ミルトン協会会員業績（2017 年度）

Arai, Akira. “The Trial of Christ in *Paradise Regained*.” 野呂有子（監修）『<楽園>の死と再生』第 2 巻 1-15 頁。

桶田由衣 「祈りから救済へ：A *Mask*における the Lady と Sabrina の間に見られる救済の枠組み」 野呂有子（監修）『<楽園>の死と再生』第 2 巻 76-92 頁。

Ohama, Eri. “Satan, Samson, and Ambition: With Reference to Heinz Kohut’s Psychological Analysis of the Self.” 野呂有子（監修）『<楽園>の死と再生』第 2 巻 105-24 頁。

金子千香 「火薬陰謀事件を巡るジェームズ一世の説教政策とミルトンの「火薬陰謀事件」連作詩における王政批判」 野呂有子（監修）『<楽園>の死と再生』第 2 巻 56-75 頁。

- 笹川渉 「「神意にかなわぬ」ソロモン王——『失樂園』におけるチャールズ二世の表象」  
『17世紀の革命／革命の17世紀』 十七世英文学会編 金星堂（2017） 69-88頁。
- Sano, Hiroko. “Translating Milton’s Poetry into Japanese with a Case Study of *Samson Agonistes*.” *Milton in Translation*, edited by Angelica Duran, Islam Issa, and Jonathan R. Olson, Oxford UP, 2017, pp. 459-75.
- 道家弘一郎 「『失樂園』における「第一質量」について」聖心女子大学キリスト教文化研究所『宗教と文化』34巻（2018.3）69-99頁。
- 富樫剛 「今日の花を摘む心安らかで賢い幸せな人——『トテル撰集』からマーヴェルの「ホラティウス風オード」まで——」『17世紀の革命／革命の17世紀』 1-27頁。
- Nakayama, Osamu. “And Finally...Reading Between the Lines: Tobias and the Fishy Fume.” *The Expository Times*, vol. 129, no. 3, Dec. 2017, p. 146.
- 野呂有子 「*The Faerie Queene* から *A Mask Presented at Ludlow Castle* へ：Dual Heroism の枠組みと the Female Hero の概念を中心として」『<楽園>の死と再生』第2巻 220-54頁。
- 「『偶像破壊者』から『楽園の喪失』へ——祈りの問題を中心として」『17世紀の革命／革命の17世紀』 89-109頁。
- （監修）『<楽園>の死と再生』第2巻 金星堂（2017.3）。
- （プロジェクト代表者）、他共同研究者5名 『『イングランド国民のための第一弁護論』におけるラテン語・英語・日本語対照データベース（The Comparative Table of Latin, English and Japanese in *Pro Populo Anglicano Defensio*）』ウェブサイト『野呂有子の研究サイト（ジョン・ミルトンを中心にして）』（<http://www.milton-noro-lewis.com/database.html>）（2017.4）。
- （編集主幹）、他共同研究者5名 『*Pro Populo Anglicano Defensio* 1651/1658 『イングランド国民のための弁護論』1651年版と1658年版の比較対照版』（2018.1）。

## 事務局だより

**2017年4月1日**

---

事務局の引き継ぎ（龍谷大学 川島伸博 → 青山学院大学 笹川渉）

**2017年7月1日**

---

第14回研究会、第21回運営委員会（出席者8名）

以下、運営委員会議事録より重要箇所を掲載。

1. 2016 年度決算について

金崎委員より報告。承認された。寄付の 30,000 円は逝去された長谷理恵先生の御母堂様からのものであることが報告された。

2. 2017 年度予算について

金崎委員より提案。支出に「若手支援」の項目を新設し、その費用として 30,000 円を計上することが決定された。

3. 郵便振替口座異動の扱いについて

事務局長交代に伴う郵便振替口座の異動が完了していない経緯について説明された。その対応策として、規約の「1.名称」を、「本会は、日本ミルトン協会と称する。英語表記は The Milton Association of Japan とする」と改正することを決定した。上記の変更により郵便振替口座の異動が可能かどうかを笹川委員が確認し、異動が可能であれば規約の改正を 12 月の総会に諮ることとした。また、ネットバンキングは見送ることとした。

4. 会報の研究文献目録の扱いについて

現行の「日本におけるミルトンの研究文献目録」から、「日本ミルトン協会会員業績」と変更し、会員から申告された業績は全て掲載することを決定した。

5. 12 月研究大会の研究発表について今後の活動予定について

大島範子氏が研究発表を行うことが報告された。他に 1 名の人選を継続することを確認した。

6. その他

- ・ 会計係が現金の立替を行うことで、会計年度の終わりと会計監査の時期の間に、手元の現金に変化が生じないようにすることとした。
- ・ 圓月委員より 2019 年度開催 IMS12 はフランスのストラスブール大学で開催される可能性が高いことが報告された。

**2017 年 12 月 1 日**

---

第 14 回研究会、第 22 回運営委員会（出席者 7 名）

以下、運営委員会議事録より重要箇所を掲載。

報告事項

1. 2016 年度決算および 2017 年度予算について

金崎委員より 2016 年度決算と 2017 年度予算の説明がなされ、会計監査も承認されたことが報告された。

## 2. 郵便振替口座異動の扱いについて

笹川委員より、規約の改正により郵便振替口座の異動ができることが報告された。第21回運営委員会で決定した通り、規約の「1. 名称」を、「本会は、日本ミルトン協会と称する。英語表記はThe Milton Association of Japan とする」と改正、付則（7）の住所の後に、「郵便局の振替口座 00990—5—306177 の口座代表者は事務局長（氏名）が担当する」と付け加えることを確認した。

## 審議事項

### 1. 2018 年度活動予定について

- ・7月例会は7月7日（土）に神戸市外国語大学（大学共用施設 UNITY）で開催することを決定した。発表者2名のうち1名は川崎和基氏が行うことを決定した。
  - ・12月大会は12月1日（土）に青山学院大学で開催することを決定した。
- ※4頁に掲載の通り、当初は12月8日の日程であったが、12月1日への変更を決定した。

※その後の交渉で、シンポジウムのコーディネーターは江藤あさじ氏に決定。江藤氏より、テーマは「ミルトンと神」、パネリストは富樫剛氏と山本信太郎氏（神奈川大学）であることが報告された。

### 2. 『会報』第10号巻頭言執筆者について

笹川委員が担当することを決定した。

## 訃報

本協会会員で東北学院大学教授の箭川修先生が2018年3月17日に逝去されました（享年58歳）。箭川先生は闘病を続けられながら、2017年12月にも研究発表をされていたそうです。ご業績には、MCJ・MAJ 会員の先生方と共同で執筆された『挑発するミルトン——『パラダイス・ロスト』と現代批評』（彩流社、1995）所収の「トライアングル・ヴァリエーションズ——墜ちる者達の心理——」をはじめ、「＜偶像崇拝＞——ミルトンにおける＜根源的な悪＞」、『新歴史主義からの逃走』（共著、松柏社、2001）など多数ございます。また翻訳でも、クリストファー・ヒルやフレドリック・ジェイムソンなどを手がけられました。MCJ・MAJ への先生の永きにわたるご尽力に感謝し、心より哀悼の意を表します。

日本ミルトン協会 2016年度会計決算報告 および 2017年度予算案

自2016年4月1日

至2017年3月31日

	摘要	2016年度予算案	2016年度決算	2017年度予算案
収入	会費	200,000	213,000	200,000
	前年度繰越金	2,604,815	2,604,815	2,788,258
	雑収入	0	825	0
	寄付	-	30,000	-
	計	2,804,815	2,848,640	2,988,258
支出	会報関係費	70,000	32,841	70,000
	印刷費	0	0	0
	HP管理費	14,000	13,026	14,000
	会場関連費	50,000	14,000	50,000
	若手支援費	0	0	30,000
	雑費	1,000	515	1,000
	次年度繰越	2,669,815	2,788,258	2,823,258
	計	2,804,815	2,848,640	2,988,258

基金会計

ゆうちょ銀行	1,500,000
--------	-----------

上記の通り間違いありません。

2017年12月9日

会計

金崎 八重



会計監査

江藤 あじ



倉恒 澄子





# 日本ミルトン協会規約

1. 名称 本会は、日本ミルトン協会と称する。英語表記は The Milton Association of Japan とする。
2. 目的 本会は、日本ミルトン・センター（The Milton Center of Japan, 1975 年 7 月 18 日－2008 年 3 月 31 日）の事業と組織を継承し、ミルトン研究を促進することを目的とする。
3. 事業 以上の目的を達成するために、次の事業を行なう。
  - (1) 研究大会
  - (2) 研究会
  - (3) 広報活動
  - (4) その他
4. 組織 本会は、本会の主旨に賛同する者をもって組織する。
5. 役員 本会に以下の役員を置く。役員を選出については付則に定める。

会長 1 名	事務局長 1 名
事務局委員 2 名	企画委員 6 名
ホームページ委員 2 名	会計監査委員 2 名
6. 機関
  - (1) 総会  
本協会の最高決議機関とする。議長は会長が務める。
  - (2) 運営委員会  
運営委員会は、本協会の運営に関する事項を審議する。委員長は会長が務める。運営委員会は、以下の役員によって構成する。

会長	事務局長	事務局委員
企画委員	ホームページ委員	
  - (3) 事務局  
事務局は、会計、機関誌の発行、その他の事務を担当する。
  - (4) 企画委員会  
企画委員会は、研究大会・研究会等の企画を行う。
  - (5) ホームページ委員会  
ホームページ委員会は、本協会のホームページの管理・運営にあたる。
  - (6) 顧問をおくことができる。
7. 会計
  - (1) 会費

会員の会費は年額 5,000 円とする。ただし、学生会員の会費は 1,000 円とする。

(2) 会計監査

会計監査は、原則として年 1 回、会計監査委員が行い、運営委員会および総会に報告する。

(3) 若手支援

学生会員が研究発表を行う場合、1 万円を上限に自宅あるいは在籍校から会場までの実費交通費を支給する。

**8. 規約の改正** 本規約の改正は、総会における出席者の過半数の賛成によって実施する。

**9. 設立年月日** 本会の設立年月日は 2008 年 4 月 1 日とする。

**10. この規約は、2008 年 4 月 1 日から施行する。**

**付則 役員の選出ならびに所在地**

- (1) 会長は、運営委員会の推薦に従って、総会において選出する。任期は 3 年とし、再任を認めない。
- (2) 会長は、運営委員会に諮った上で、役員を任命する。
- (3) 事務局長は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。事務局委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。
- (4) 企画委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。
- (5) ホームページ委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を妨げない。
- (6) 会計監査委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を認めない。
- (7) 本会の所在地は次のとおりとする。

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学文学部 笹川渉研究室

郵便局の振替口座 00990—5—306177 の口座代表者は事務局長笹川渉が担当する。

2008 年 4 月 1 日

2015 年 12 月 5 日改正

2012 年 4 月 1 日改正

2017 年 12 月 9 日改正

2014 年 4 月 1 日改正

# 日本ミルトン協会 役員および委員

(2018年4月1日現在)

**顧問** 新井 明 聖学院大学

---

**会長** 西川健誠 神戸市外国語大学

---

**事務局長** 笹川 渉 青山学院大学

---

**事務局委員** 金崎八重 大阪府立大学工業高等専門学校  
川崎和基 日本大学

---

**企画委員** 圓月勝博 同志社大学  
桂山康司 京都大学  
川島伸博 龍谷大学  
小山 薫 同志社女子大学  
富樫 剛 フェリス女学院大学  
水野眞理 京都大学

---

**ホームページ委員** 小林七実 (同志社大学)  
川崎和基 日本大学

---

**会計監査委員** 江藤あさじ (同志社女子大学)  
倉恒澄子 (甲南女子大学)

---

\* ( ) は非常勤講師

---

日本ミルトン協会 会報  
Newsletter of the Milton Association of Japan  
第 10 号

2018 年 4 月 1 日発行

編集者兼発行者 日本ミルトン協会  
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25  
青山学院大学文学部  
笹川渉研究室  
振替番号 00990—5—306177